

特集

巻頭言

座談会

論文

提言

事例紹介

資料

エッセイ

カラー

新しい時代の教育委員会

求められる「連携協力」体制

高倉 翔

これからの教育委員会に期待されるもの

(出席者)石川忠雄/伊藤政子/奥山 桂/上寺久雄/(司会)小野元之

岐路に立つ教育委員会

松井一麿

生涯学習社会と教育委員会

牧 昌見

広域市町村圏における教育行政の活性化

安彦文司

親は子どもの脇役でしかないことの自覚が必要
課題は、指導者の資質の向上
ざりざりの本性

教学から発する行政を

安永路子

1 豊かさ・活力に満ちた教育のまちづくり

兵庫県三田市教育委員会

2 「国際交流盛んなまち」を目指して

兵庫県三田市教育委員会

3 生涯学習社会の実現を目指して

富山県黒部市教育委員会

4 共同設置教育委員会の事務局体制と広域人事

千葉県教育委員会

教育長から一言 教育長の一週間

入江圭司

教育委員会の現状について

岐阜県羽島郡四町教育委員会

地域の活性化について

三木多聞

学校建築の今言遷喬小学校 1

人間国宝登場 山田 貢 4

名作シリーズ 尊勝曼荼羅図 表紙2

文化財紹介 寶林寺仏殿 表紙3

人々の道今井信子

わがまちの教育・文化 ⑥ 福井県宮崎村

焦点 文教施策

こはの小箱 / やさしい教育用語の解説

私の選ぶ一冊 遠山耕平

ふるさとをうた 赤とんぼ

科学のひろば 宇宙科学研究所 ③ 74

海外教育ニュース 76

郷土に生きる教育家群像 ⑩ 宮城県 78

鑑賞席ウイリアム・ブレイク展 82

読者からのたより 83

編集後記 84

イラスト 赤羽根秀一・内部敬生・須田博行

近年、地域の活性化が話題になることが多く、各地でさまざまな工夫や努力がなされている。美術との関連でいえば、彫刻のある街づくりや、大小規模の美術館の開設などが挙げられる。六月に水戸市で総会を開催した全国美術館会議の加盟館が二五〇館にのぼり、毎年一〇館以上の新加入が続くなど、当分増加の一端をたどりそうである。

ことし二月、沖縄にはじめての公立美

比嘉昇市長は大変意欲的であった。

地域の活性化の動きのなかで、規模の大小や歴史的、文化的特性によって、画一的でなくそれぞれの地域の特色が生かされるのが望ましいことはいうまでもないが、むしろ人口もそれほど多くなく、小さな行政単位の方が小まわりが利き、市長をはじめとする強力な推進者を得れば、ユニークで大胆な活動が可能になると思われる。大規模な地域ではさまざまな意見が多く、各方面のコンセンサスを得る必要があるため、特色のあるプロジェクトを実現することが困難な場合も多い。那覇より先に浦添市に公立美術館が開設されたのは、十分理由のあることだと理解できた。

一方、彫刻のある街づくりでも、ことし五月、東京都清瀬市に「キヨセ ケヤキ ロードギャラリー」が完成した。人口六万人あまりの小都市清瀬が名物の「けやしき通り」に、柳原義達、淀井敏夫、堀内正和、佐藤忠良、舟越保武ら超ベテランか

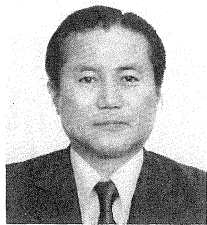
地域の活性化について

三木多聞

美術館が開設した。浦添市美術館である。なぜ那覇でなく浦添になのか、少し疑問をもちながら訪れた。人口七万人あまりの浦添市は、もと琉球王朝の所在地で、歴史ある都市である。開館記念展は文化庁が巡回する「現代美術選抜展」であったが、地域と密着した琉球漆器をコレクションの中心にしたい意向という。建築家内井昭蔵氏の特徴ある設計によるこの美術館を、沖縄文化のセンターにしたいと、

ら、城田孝一郎、澄川喜一、掛井五郎、手塚登久夫、山本正道ら実力派中堅作家まで日本の現代彫刻を代表する一〇名の、抽象・具象作品を設置し、市民の日常生活の中にすぐれた現代彫刻を同化させている。また人口五万人あまりの鳥取県倉吉市でも同様の「緑の彫刻プロムナード」のプロジェクトが進められている。展覧会を開催して彫刻を設置する例として、愛知県東海市の「東海・鉄による都市彫刻大賞展」や福井県美浜町の「美浜国際野外彫刻ビエンナーレ展」など、それほど規模の大きくない自治体でも注目すべき動きが見られる。

そういえば、今日全国的に盛んになっている野外彫刻展の先駆として知られる「全国野外彫刻コンクール応募展」を一九六三年に開催した山口県宇部市は当時人口一六万人の都市であった。人口、規模に応じて各地域の特色ある活性化の試みが期待される。



みき・たもん 1929年生。東京都出身。早稲田大学文学部卒。1952年開設以来東京国立近代美術館に勤務、美術課長などを歴任。1982年文化庁文化財保護部企画官、1986年から国立国際美術館長。著書「近代絵画のみかた」等多数。

特集 国際化時代の 日本語教育

●巻頭言

国際化時代の日本語教育 中川秀恭

●座談会

日本語教育の現状

(出席者五十嵐耕一/鈴木 堯/西尾桂子
水谷 修/司金 小口浩一)

●論文

国際化の進展と日本語教育の重要性

野元菊雄

日本語教員の養成について

宮地 裕

●事例紹介

日本語教材の研究開発

国立国語研究所日本語教育センターほか

人々の道

わがまの教育・文化

科学のひろば

ふるさとのうた

郷土に生きる教育家群像

藤原 雄

宮崎県立共同研究機構

千葉県教育委員会

奈良県

▽教育委員会は、日ごろどのような活動を行っているか、知られていない面が多いのではないかと思います。そこで、今月号は、新しい時代の教育委員会」という特集を組みました。

▽教育委員会が、生涯学習への取り組みや地域住民の文教行政に対する要望を、どのように行政に反映させていくかというのなど、新しい時代に対応しようとしている姿勢を理解していただければ幸いです。

▽また、各教育委員会のキャッチフレーズ、教育長の顔写真と一言、ある教育長の一週間を日誌風に取上げ、教育委員会が身近に感じ

ていただけるようにも工夫したつもりです。

▽皆様方のところの教育長さんの写真と一言、教育委員会のキャッチフレーズはいかがでしたか。

▽長い夏休みも終わり、元氣な顔が教室に戻ってきましたでしょうか。教室は夏休みの楽しい話でにぎわっていることと思いますが、来春卒業を控えている生徒は、各々の進路決定に真剣に取り組む時季となりました。一生のことで、自分をしっかり見つめた上で、先生や父母などにも十分相談して、最良の進路を決めてほしいものです。

(S・K)

投稿歓迎

●投稿規定
①一件につき四〇〇字以内 ②住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記(誌上匿名可) ③掲載分には薄謝進呈
※文章を一部手直しさせていただくことがあります。

●送り先

〒100東京都千代田区霞が関三二二二

文部省大臣官房政策課「文部時報」編集部

MESC 61 月刊

文部時報 9月号

第1364号

●著作権所有——文部省◎

●発行所——株式会社 きょうせい

本社 〒104 東京都中央区銀座7丁目4番12号

(営業所) 〒162 東京都新宿区西五軒町4-2

電話 03-268-2141(代表) 振替口座 東京9-161番

●印刷所——株式会社行政学会印刷所

平成2年9月10日印刷
平成2年9月10日発行

定価500円(本体485円)(〒61円)
年間購読料6,000円(〒共)

・ただし、増大号、臨時号の場合は別に代金を申し受けます。
・なお、購読のお申し込みは直接営業所またはほとりの書店にお願いします。

●本誌の掲載文のうち、意見にわたる部分については、それぞれ筆者個人の見解であることをお断りいたします。

Printed in Japan 1990